

特45-347



1200800203895

特45

347

農村經濟調查

其一

古志郡六日市村

新潟縣農會



始



特45
347

緒言

經濟界ノ趨勢ハ農村ヲシテ舊來ノ事業ヲ墨守スルヲ容サス、何等歟時勢ノ進運ニ伴フ施設ヲ行ハサルヘカラスト雖モ、土地ト勞力トヲ基礎トスル農業ニ在リテハ其改善亦地方ノ事情ヲ無視スルコト能ハス。茲ニ於テカ、本會ハ明治四十三年度ニ於テ、十六ヶ村ヲ選ミ、其ノ經濟狀態ヲ調査シ、將來ノ農業方針ヲ確定シ、事業ノ緩急ヲ圖リテ實行ヲ期センコトヲ欲シ、地方ノ有志者ト豫メ協定シ、之レカ調査ヲ施行シタリ、本調査ハ即チ其ノ一二屬ス。而シテ其始メ調査ニ着手スルヤ、元來個人統計皆無ノ事項少カラサルヲ以テ、其ノ困難名狀スヘカラサリシモノアルニ關ラズ委員諸氏ノ熱心ナル實査ニ由リテ完成シ以テ此ニ發表スルヲ得タルナリ。

明治四十四年三月二十五日

新潟縣農會

44. 5. 25

古志郡六日市村委員氏名

- 佐藤 務 (村農會長)
- 青木 政吉 (助役、村農會副代表者)
- 細貝 繁藏 (村役場書記)

農村經濟調査

古志郡六日市村

目次

第一	沿革	一
第二	地勢	二
第三	地質及土性	二
第四	土地及戸數人口	三
	本村ノ土地所有者	
	本籍戸數人口	
	現住戸數人口職業別	
	従事者年齢別	
第五	農地	四
	本村ノ農地所有者	
	本村民カ他町村ニ於テ所有スル農地	
	本村民ノ所有權アル農地	
	自作及小作反別	
	本村ノ農地ニシテ他町村民ノ自作又ハ小作ヲ爲ス反別	
	他町村ノ農地ニシテ本村民カ自作又ハ小作ヲ爲ス反別	
第六	農民	五
	小作ヲ爲ス反別	
	乾田並濕田反別及旱損地水害地反別	
	農地所有權ノ異動	
	農地賣買價格ト公定地價トノ比較	
	農業戸數及人口	
	自作及小作農戸數及人口	
	耕作反別ト農戸口トノ比較	
	所有ノ大小ニ依リ區別シタル農戸數	
	耕作地ノ大小ニ依リ區別シタル農戸數	
第七	栽培	七
	田地ノ等級別平均收穫	
	小作料	
	甲 田地一反歩ノ小作料	
	乙 畑地一反歩ノ小作料	
	地主ト小作人トノ收穫比較	
	重ナル作物收支計算	
	肥料	
	甲 堆肥	
	乙 堆肥舍建設ノ狀況	
	丙 金肥施用高及其成績	

(一) 山林反別及植林反別
 第八 經濟……………九

(1) 農民一家經濟ノ狀況

甲 收入

乙 支出

(ハ)(ロ) 資産程度表

(ハ) 本村ノ經濟

甲 歳入

(イ) 本村生産額

(ロ) 本村民カ他町村ヨリ得ヘキ收入

(ハ) 貯金其他ノ利子

(ニ) 商業利益

(ホ) 報酬及給料

(ヘ) 勞働利金

(ニ) 他町村ヨリ收入スヘキ諸稅

(チ) 雜收入

乙 歳出

(一) 公費

(二) 本村ノ消費額

(三) 本村民カ他町村ニ拂フヘキ支出額

丙 歳入出總額比較

(ニ) 金融ノ狀況

甲 本村ノ負債

乙 本村民カ他町村民ニ對スル債權

(ホ) 蓄積ノ狀況

第九 勞力……………二二

(イ) 一日ノ勤務時間

(ロ) 農業者ノ休業日

(ハ) 雇人

(ニ) 雇人ノ賃金

甲 日雇賃金

乙 年雇ノ給金

第十 役用家畜……………二三

第十一 副業……………二三

(イ) 家禽

(イ) 露

第十二 農業ニ關スル施設ノ狀況……………二四

第十三 將來ノ施設……………二四

第一章 豫論

第二章 結論

農村經濟調查 古志郡六日市村

第一 沿革

本村ハ先ニ長岡藩管轄(世俗稱)上組ノ一部ニ屬シ、渡澤、黒田新田、猪澤、犬茂島、蛇山、瀧谷、六日市、三俵野、中潟、妙見、白岩、浦柄、横渡ノ十三ヶ村ニ分カレ。明治元年八月民政局ノ管轄トナリ、全二年二月十二日之レヲ廢シ、再ヒ長岡藩ノ管轄トナリ、全三年十月之ヲ廢シ柏崎縣管内タリ。全五年六月大小區制ヲ布カレ、蛇山、犬茂島ノ二ヶ村ニ上組村大字上前島ヲ併セ第十六大區、小五區一番組トス、六日市三俵野ノ二ヶ村ヲ同大小區六番組トス、妙見、白岩、浦柄、横渡、中潟ノ五ヶ村ヲ同七番組トス、マタ瀧谷、渡澤、黒田新田、猪澤ノ四ヶ村ヲ第十五大區小九區一番組トス、全六年六月十日柏崎、新潟ノ兩縣併合、全ク新潟縣管轄トナリ、全十二年四月二十八日大小區制廢シ郡區制トナリ町村ニ戶長役場ヲ置キ、蛇山、犬茂島ノ二ヶ村ヲ一區域トナシ、瀧谷、渡澤、黒田新田、猪澤ノ四ヶ村ヲ一區域トシ、六日市、三俵野ノ二ヶ村ヲ一區域トシ、妙見、白岩、浦柄、横渡、中潟ノ五ヶ村ヲ一區域トス、全十七年八月戶長役場ノ區域ヲ擴張シ、蛇山、瀧谷、渡澤、黒田新田、猪澤、犬茂島ノ六ヶ村ニ十日町、片田、小島古新田ノ三ヶ村ヲ合セ十日町村外八ヶ村戶長役場ト改稱、役場位置ヲ十日町村ニ置カル、又六日市、中潟、妙見、浦柄、横渡、白岩、三俵野ノ七ヶ村ヲ一區トシ六日市村外六ヶ村戶長役場ト稱シ、位置ヲ妙見村ニ置カル、全二十二年四月一日町村制實施ニ依リ蛇山、瀧谷、渡澤、黒田新田、猪澤、犬茂島ノ六ヶ村ヲ合併シ、山谷澤村ト改稱シ、役場ヲ蛇山ニ置カル、マタ六日市、中潟、妙見、浦柄、横渡、白岩、三俵野ノ七ヶ村ヲ合セ六日市村ト改稱シ、役場ヲ妙見ニ据置カル。全三十四年十月一日、二ヶ村ヲ合併シテ六日市村ト改メ役場位置ヲ六日市ニ定ム、是ニ於テカ以上十三ヶ字ヨリ成立セル自治体タル本村トナリ以テ今日ニ至レリ。

第一、地勢

東ハ古志郡太田村、東山村ニ界ス、南ハ一体北魚沼郡蕨生村ト野邊川ヲ以テ境トス、西ハ北魚沼郡千田村及三島郡片貝村ト信濃川ヲ以テ界トシ十日町村ト耕地中ニ於テ境ス、北ハ古志郡七組村及ヒ十日町村ト舊三等渡澤川ノ中央ヲ以テ境ヲ限ル。村内山地ト平地ト略相半シ東ハ一体山脈連亘シ金倉ノ嶮岨アリ、村界北ニ渡澤川アリ、南ニ野邊川アリ、中ニ朝日川アリ、共ニ舊三等川ナリ、其他戸田、手取等ノ諸川アリ、皆水源ハ金倉及其山脈ヨリ發シ耕地ヲ灌溉シテ遠ク信濃川ニ合ス、又東大新江、犬茂江、六日市江等ノ用水路アリ、皆信濃川ヲ分水シ以テ耕地ヲ灌溉ス、且又福島江、中江、鳥江、及向島江等ノ如キ他町村ノ用水路アリ、皆信濃川ヲ水源トス。河川トシテハ信濃川アリ、國道トシテハ第八號線路アリ、共ニ交通運輸ノ便アリ。地味ハ概シテ中位ヲ降ラス。幅員、東西一里二十町十一間、南北一里三十町四十六間三尺、面積九千二百二十五方町六分ナリ。

第三、地質及土性

本村ノ土質ハ山地ト平地ト其趣ヲ異ニス、山地及山地ニ添ヘタル一部ハ地質系統第三紀層及第四紀古層ニシテ、平地ノ大部分ハ信濃川ノ沖積層ナリ。山地ハ大字横渡、浦柄、妙見ノ大部及大字六日市、中潟、瀧谷、蛇山、渡澤ニ亘リ、主トシテ粘質壤土ニシテ、地味肥沃ノ處多ク、大字妙見、浦柄、六日市ノ一部ハ腐植質砂土ニシテ地味瘠薄ナル處アリ。平地ニ於テハ大字三俵野、犬茂島ノ大部及大字横渡、中潟、六日市、瀧谷、蛇山ノ一部ハ、砂質壤土或ハ壤土ニシテ地味肥沃ト稱シ難キモ、瀧水排水共ニ至リテ便ナリ。大字渡澤、浦柄、蛇山ノ大部及大字瀧谷、六日市、中潟、妙見ノ一部ハ概シテ粘質土ニ富ミ、地味、肥瘠相半ハシ排水一般ニ宜シカラス、殊ニ大字蛇山、瀧谷、六日市ノ一部ニアリテハ排水甚タ不便ノ處アルヲ免レス。

第四、土地及戸數人口

明治四十二年十二月末日現在

(イ) 本村ノ土地所有者

土地ノ區別	總反別	總地價	區別		反別	地價	反別	地價
			有	私				
田	三、〇六八、八〇七	一〇六、二四三、四一	四、七九	九一、六五	三、〇六四、〇〇八	一〇六、一五、一六	四、七九	九一、六五
畑	二、〇八九、三〇九	二〇、〇六七、〇一	四、七九	一一、二六	二、〇四四、五二〇	一九、九四五、六五	四、七九	一一、二六
宅地	三、五、四〇七	七、六四、六八	三、〇一七	六五、〇四	三、二二、三三〇	七、五四九、六四	三、〇一七	六五、〇四
山林	五、〇一五、三〇六	四、四九一、六七	四、四、五四	三九六、二六	四、五五〇、八二二	四、〇九五、四二	四、四、五四	三九六、二六
原野	四七二、八一〇	二七九、六八	一八、〇〇〇	四、五〇	四、五三、八一〇	二七五、一八	一八、〇〇〇	四、五〇
雜種地	二、八〇五	一六、九〇	一、八六	一一、二八	九〇九	五、六二	一、八六	一一、二八
合計	一〇、九六三、五五四	一三六、七三三、三五	五七、〇二五	六九〇、〇九	一〇、四二六、四一九	一三六、〇二三、二七	五七、〇二五	六九〇、〇九

備考 將來開墾シテ田畑地ト爲シ得ヘキ原野反別ナシ

(ロ) 本籍戸數人口

戸數	人		計	種目	區別	專業兼業	人	
	男	女					男	女
五四二	一、七〇八	一、七〇八	三、四一六	農	三九九	二九	九〇五	九五四
備考	前年ニ比シ著シキ増減ナシ			工	一九	一	五九	一一
				商	二七	三	八五	五〇
				雜	四四	一	五四九	六四
				合計	四九九	四二	一、五九六	一、六三九

備考 前年ニ比シ著シキ増減ナシ

(ハ) 現住戸數人口職業別

(二) 従業者年齢別

十七歳以下	十八歳乃至五十五歳	五十六歳以上	計
男 八九	男 六六	男 一三	男 一六八
女 九〇	女 七五	女 七九	女 一四四
			計 三一二

第五、農地

明治四十二年末現在

(イ) 本村ノ農地所有者

農地ノ區別	他町村民ノ所有	本村民ノ所有
反別人員	反別人員	反別人員
田 三〇、八八〇	一〇、四〇〇	三、八〇〇
畑 二〇、八九、三〇	一〇、七〇〇	一、七〇〇
合計 五、一六、二六	二一、一〇〇	五、五〇〇

(ロ) 本村民カ他町村ニ於テ所有スル農地

農地ノ區別	反別人員	地價	人員
田	五三、六一	三、六三、九五〇	四〇
畑	二九、〇三	一、八七、三六	四
合計	六九、七〇	二、五〇、九一六	四四

(ハ) 本村民ノ所有權アル農地

農地ノ區別	反別人員	地價
田	三、四六、三三	一三、〇六九、七〇
畑	一、八五、二〇	一、九七五、三〇
合計	五、三二、五三	一五、〇四五、〇〇

(ニ) 自作及小作反別

農地ノ區別	自作反別	小作反別	計
田	九九、六三	二、〇三、八八	三、〇一九、五〇
畑	九四、五七	八六、四〇	一、八五二、〇〇
合計	一九四、二〇	二、九〇、二八	四、八七〇、五〇

(ホ) 本村ノ農地ニシテ他町村民ノ自作又ハ小作ヲ爲ス反別

農地ノ區別	自作反別人員	小作反別人員	反別人員	地價
田	一三、一〇〇	四	一三、一〇四	二、五、九〇〇
畑	一三、〇〇〇	一〇、四〇〇	二三、四〇〇	一、一五、四〇〇
合計	二六、一〇〇	一〇、四〇〇	三六、五〇〇	三、七一、三〇〇

(ヘ) 他町村ノ農地ニシテ本村民カ自作又ハ小作ヲ爲ス反別

農地ノ區別	自作反別人員	小作反別人員	反別人員	地價
田	一四、一〇〇	七	一四、一〇七	三、七、一〇〇
畑	二〇、四一〇	一九	二〇、四二九	一、五、四、二一〇
合計	三四、五一〇	二六	三四、五三六	五、三、五一〇

(ト) 乾田及濕田反別及旱損地水害地反別

明治四十三年調査

反別付	乾田	濕田	旱損地	水害地	乾田ト爲シ得ヘキ反別人員	絕對ニ排シ得ヘキ水害地ハサル反別人員
田	一、〇、八八	一、〇、八八	一、〇、八八	一、〇、八八	一、〇、八八	一、〇、八八
畑	一、〇、八八	一、〇、八八	一、〇、八八	一、〇、八八	一、〇、八八	一、〇、八八

備考 濕田ニ對シ乾田ニ於ケル收穫ハ概シテ一割以上ノ增收アラン、又乾田ニ付テハ手施肥用ノ効果アリ故ニ絕對出來得ル限リ乾田ト爲スノ感念アリ然レトモ表記ノ如ク將來見込アル餘地ハ僅ニ三町歩内外ニ過キス

(チ) 農地所有權ノ異動 明治四十二年

第六、農民

明治四十二年末現在

農地ノ區別	他町村ノ所有權移轉		自村内ノ移轉	
	件數	人員	件數	人員
田	五	二、六五三	三	一、九五一
畑	一	一、八〇三	三	一、八七〇
合計	六	四、四五六	六	三、八二一

備考 所有權ノ移動セル重ナル町村ハ其年ノ如何ニ因リ一定ナラサルモ本年内ニ在リテハ古志郡上組村及東山村トス而シテ其移轉ニ關スル状態ニ就キテハ其模寄ヲ換ヘントスルモノアリ偶々中位ノ資産者生活上賣却スルモノナキニアラス又一戸内都合上其家族ノモノニ所有權ヲ移轉セシムルモノアリ概シテ破産者ノ多キニ因リテ以テ斯カル状態ヲ來シタルニハアラサルナリ

(リ) 農地賣買價格ト公定地價トノ比較

農地ノ區別	上		中		下	
	買價	公定	買價	公定	買價	公定
田	一、九七、〇〇〇	一、九七、〇〇〇	一、九七、〇〇〇	一、九七、〇〇〇	一、九七、〇〇〇	一、九七、〇〇〇
畑	一、九七、〇〇〇	一、九七、〇〇〇	一、九七、〇〇〇	一、九七、〇〇〇	一、九七、〇〇〇	一、九七、〇〇〇

(イ) 農業戸數及人口

農業戸數	人口		從業者		非從業者	
	男	女	男	女	男	女
専業	一、一〇〇	二、一〇〇	八七	一〇	七〇	一〇
兼業	三、五〇〇	六、九〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇
合計	四、六〇〇	九、〇〇〇	三、一七〇	三、三〇〇	一、九〇〇	二、二〇〇

(ロ) 自作及小作農戸數

農家別	耕作反別	農戸數	從業者
自作農	九、九〇〇	四	男 一、一〇〇 女 一、一〇〇
自作兼小作農	一、二〇〇	一〇七	男 二、四〇〇 女 二、五〇〇
小作農	二、七〇〇	二、六〇〇	男 五、〇〇〇 女 五、〇〇〇
合計	四、八七〇	四、九〇〇	男 一、八五〇 女 一、八五〇

(ハ) 耕作反別ト農戸口トノ比較

耕作地ノ區別	本村民ノ耕作反別	農戸數	從業者	均反別	均反別
田	三、〇一九、五〇一	四三二	一、八五〇	七、〇〇二	一、六三三

種別	耕作地ノ大小ニ依リ	耕作地全部ノ大小ニ依リ
五反歩以上	四〇	三
一町歩以上	二〇	三
二町歩以上	七	一
三町歩以上	七	七
五町歩以上	五	五
計	五〇一	五〇一

種別	本村ノ農地ヲ耕作スル農戸數	他町村ノ農地ヲ耕作スル農戸數	耕作地全部ノ大小ニ依リ
田五反歩未満	一三	六	一六〇
五反歩以上	一七	六	二三
一町歩以上	一〇七	六	二七
二町歩以上	四	六	六
三町歩以上	四	六	六
四町歩以上	四	六	六
五町歩以上	四	六	六
計	四三	三〇	四三
畑五反歩未満	二九〇	七	二八七

畑	一、八五〇、〇〇七	四三二	一、八四六	三、五二九	八二〇
計	四、八七〇、五〇八	四三二	一、八五〇	一〇、三三六	二、四二六

(ニ) 所有地ノ大小ニ依リ

種別	本村ノ農地所有戸數	他町村内ノ農地所有戸數	所有地ニ依リ區別シタル農戸數
田 皆無ノ者	一六	四六〇	一八七
五反歩未満	二〇一	二四	二二五
五反歩以上	四	六	一〇
一町歩以上	三	四	七
二町歩以上	九	三	一二
三町歩以上	七	一	八
五町歩以上	四	二	六
十町歩以上	四	一	五
二十町歩以上	二	一	三
三十町歩以上	二	一	三
五十町歩以上	一	一	二
計	五〇一	五〇一	五〇一
畑 皆無ノ者	一七	四六	六三
畑 五反歩未満	二四七	三	二五〇

第七、栽培

(イ) 田地ノ等級別平均收穫

田地ノ等級	一反歩平均收穫	見込反別
極上	二、四三〇	一、三〇〇
上	二、三六	五七、三一一
中	二、〇一〇	一、二五四、一七
下	一、六八二	八三、二〇五
最下	一、二六七	二九、〇三

(ロ) 小作料

明治四十二年

甲 田地一反歩ノ小作料

土地ノ等級	小	見込反別
極上	一、三三三	一、三三三
上	一、二四一	五七、三三一
中	一、一〇一	一、二五四、一七
下	九三	八三、二〇五
最下	六四五	二九、〇三

乙 畑地一反歩ノ小作料

土地ノ等級	小	見込反別
上	六二五	五四、九六
中	四九〇	七二、九三
下	二六六	七五、七七

(ハ) 地主ト小作人トノ收穫比較

土地ノ等級	一反歩	地主ノ收穫	小作人ノ收穫	收穫ニ對スル小作人收得ノ割合
極上	二、四二	一、三三二	一、〇七九	四、四三
上	二、三六	一、二四二	九六	四、四五
中	二、〇四	一、二五	八九九	四、四二

最下

甲	一、六三三	九四	七七	四、三二一
乙	一、二六	六四	四三	四、三三二

(ニ) 重ナル作物收支計算

(米作一反歩ニ對スル收支計算)

種別	自	作	小	作
米	一、九七三	二〇、七〇六	一、九七一	二〇、七〇六
屑米	二二	五六〇	一一	五六〇
稻	一〇〇	一、三五〇	一〇〇	一、三五〇
豆	四	六四〇	四	六四〇
合計	一、九七三	二二、二五六	一、九七一	二二、二五六
種別	自	作	小	作
種子代	三元	四升一合一升代七錢	二元	上欄ニ全シ
肥料代	三、五二	—	三、五二	—
人夫賃	六、三	—	六、三	—

丙 金肥施用ノ成績

明治四十二年

肥料名稱	一反歩ノ全上	一反歩ノ全上	普通收穫トノ比較	使用方法
大豆	二、〇〇	二、二四	增 三九〇	移植以前ニ施ス買入先ハ肥ニ長岡市地方トス
粕	—	—	—	—
人造肥料	—	—	—	—

(ヘ) 山林反別及植林反別

樹種	松	杉	檜	其他
反別	一、二五、六〇〇	一〇五、〇〇〇	—	二七、七〇六
植林年度	廿年以下	廿年以上	廿五年以上	百年以上
全反別	三、〇九、八〇六	一、三三、〇〇〇	五七、八〇〇	一一〇、〇〇〇

第八、經濟

明治四十二年

(イ) 農民一家經濟ノ狀況

甲、收入

小作料	—	二、二	小作料一石一斗二升一石代拾圓五拾錢
農具費	五、〇一	—	—
公租	二四	—	—
協議費	四二	—	—
寄附金	一六、三	—	—
合計	七、〇六	—	—
肥料	—	—	—
甲 堆肥	—	—	—
乙 堆肥舎建設ノ狀況	—	—	—
原料ノ類	一反歩ノ全上ニ要ス原料ノ數量	全上價格	一ケ年ノ使用總量
稻	五、〇	—	—
雜草	六九	—	—
計	二九	—	—
農家建設	—	—	—
完全	—	—	—
稍々完全	—	—	—
不完全又ハ未建設	—	—	—
總戸數	四六	—	—
家數	二	—	—
完全	—	—	—
稍々完全	—	—	—
不完全又ハ未建設	—	—	—
總戸數	四六	—	—
家數	二	—	—
完全	—	—	—
稍々完全	—	—	—
不完全又ハ未建設	—	—	—

種別	大地主		地主ニシテ自作スル土地ヲ有セザル小作人	
	數量	價格	數量	價格
一、農產物				
一、梗米	1	3,700	333	29,700
二、糯米	1	3,800	433	3,800
三、大豆	300	2,700	1,600	5,000
四、小豆	1	1,600	4,000	5,000
五、粟	1	4,000	2,250	1,500
六、蕎麥	1	1,000	6,000	200
七、甘藷	1	800	3,100	200
八、馬鈴薯	1	600	4,000	800
九、蘿蔔	100	3,000	9,750	100
十、胡蘿蔔	1	100	2,000	3,900
十一、牛房	5	5,500	1,800	5,000
十二、菁芋	100	4,000	2,000	5,500
十三、漬菜	100	5,600	6,000	4,500
十四、葱	1	500	6,000	1,000
十五、胡瓜	2,500	300	5,000	100

六、南瓜	10	100	15	100
七、甜瓜	1	100	1	100
八、茄	6,000	30	100	100
九、大麥	1	300	1	300
十、桑	100	100	100	100
十一、蕪	1,000	100	1,000	100
十二、副業及副產物				
一、木綿	1	10,000	1	10,000
二、蠶繭工	1	10,000	1	10,000
三、繭	1	2,500	1	2,500
三、肥料				
一、厩肥	1	5,500	1	5,500
二、人糞尿	2,000	3,000	2,000	3,000
三、灰類	1	2,000	1	2,000
四、小作料及地代				
一、小作料	10,000	1,000	10,000	1,000
二、貸地代	1,000	10,000	1,000	10,000

五、勞働賃金				
一、日雇	1	1	1	1
二、出稼	1	1	1	1
六、利子				
一、公債利子	600	20,000	1	1
二、貸金利子	1,500	1,500	25	1
三、貯金利子	1,000	30,100	1	1
四、預金利子	1,000	32,100	1	1
五、株券配當	1,000	1,000	1	1
六、勸業債券利子	10	700	1	1
七、雜收入				
一、不用品拂代	1	13,500	1	1
乙、支出				
一、公費				
一、地租	7,930	7,930	4,615	4,615
二、所得稅	405	405	7,080	7,080
三、縣稅	4,835	4,835	27,300	27,300
二、地主ニシテ自作スル土地ヲ有セザル小作人				
一、田小作料	1	1	1	1
二、畑小作料	1	1	1	1
三、宅地料	1	1	1	1
七、家畜飼料				

四、町村費	33,955	26,560	1,000	1,000
五、協議費	28,555	6,500	1	1
六、水利組合費	5,600	1,500	1	1
七、農會費	26,100	500	1	1
八、尙武會費	2,300	500	1	1
九、蠶糸同業組合費	1	1	1	1
二、種苗代	1	7,000	10,000	10,000
三、肥料費	2,000	7,000	7,000	7,000
四、農具費	2,000	7,100	2,000	2,000
一、農具	2,000	7,100	2,000	2,000
二、修繕費	1	2,000	2,000	2,000
三、農具	1	2,000	2,000	2,000
五、雇人給料				
一、年雇	50,000	3,000	10,000	10,000
二、日雇	8,925	4,800	10,000	10,000
六、小作料及地代				
一、田小作料	1	1	1	1
二、畑小作料	1	1	1	1
三、宅地料	1	1	1	1
七、家畜飼料				

八、生計費

一、飯米	三三,000	二十石	一五,100	十四石	二六,000	十二石
二、蔬菜	五,八三〇		10,000		10,000	
三、魚類干物	一三,九一〇		三,三〇〇		10,000	
四、味噌醬油	四〇,100		一三,五八〇		13,500	
五、砂糖	九,五八〇		三,七五〇		3,750	
六、茶葉	五,七五〇		10,000		10,000	
七、酒	四〇,000	一石代	七,六〇〇	一斗九升代	五,〇〇〇	一斗五升代
八、煙草	三,〇〇〇		11,000		11,000	
九、麵類	四,〇〇〇		三,〇〇〇		3,000	
十、食用雜品	三〇,〇〇〇		五,〇〇〇		5,000	
十一、被服費	二五,九八〇		三,100		3,100	
十二、住宅費	101,500		三,500		3,500	
十三、常用雜品	10,000		10,500		10,500	
十四、購入費	10,000		〇		〇	
十五、寄附金	一五,六〇〇		三,八〇〇		3,800	
十六、教育費	一八,五〇〇		二,五10		2,510	
十七、藥費	一六,〇六〇		11,000		11,000	
十八、理髮洗場	三,〇〇〇		二,300		2,300	
十九、薪炭油代	五三,〇七〇		三,九10		3,910	
二十、旅行費	11,100		1,000		1,000	
二十一、雜費	五,三六〇		10,800		10,800	

九、負債利子

一、所有金品	六二〇
二、耕作反別	一,五〇〇
三、所有金品	六二〇
四、家族	一七,〇七
勞働者男	三三
勞働者女	三二

十、雜支出

一、寄附金	一五,六〇〇
二、教育費	一八,五〇〇
三、藥費	一六,〇六〇
四、理髮洗場	三,〇〇〇
五、薪炭油代	五三,〇七〇
六、旅行費	11,100
七、雜費	五,三六〇

資産程度表

合計	四八七,三七五	五八八,一七五	六四三,〇〇〇
收支差引	三三,四九七	三三,四九七	三三,四九七
種別	大地主	地主ニシテ自ラ所有地ヲ耕スルモノ	全ク土地ヲ有セザル小作人
一、所有反別	三〇七,六三三	二二,八〇三	
二、耕作反別	四,八一五	六,六〇五	
三、所有金品	二,八六	三,110	
四、家族	一,五〇〇	一〇,四二五	
五、負債	一,五〇〇	二二,八〇三	
六、株券	二,三三〇	六,五〇五	
七、公債	六二〇	三,七〇〇	
八、勞働者男	三三	三,〇〇〇	
九、勞働者女	三二	三,〇〇〇	

非勞働者男	七三	〇二	二一
五年 男	一	一	一
五年 女	一	一	一
六、飼養馬頭數	一	一	一

本村ノ經濟

甲、歲入

(い) 本村生産額

種別	反別	收獲	收獲	高單價	價額
一、農産					
粳米	二,六三八	二,二三四	五,六三二	四,五五	一〇,五〇
糯米	五〇五	一,六〇三	六,10	七,七五	一,二一五
糯米	三,〇一〇	一,六〇三	六,10	七,七五	六,八10
糯米	三,〇一〇	一,六〇三	六,10	七,七五	六,八10
大豆	五,六五	五七〇	三三,五〇五	九,〇〇	二,九〇一,五五

小豆	二天六、八〇四	四天	二六、四八六	九、五〇	一、10六、六二
大麥	四、九七	二七	10、八九〇	六、五〇	七〇、七九
小麥	四、八〇三	四六	一九、九八五	九、五〇	一八九、八六
蕎麥	二、三九	一、〇〇〇	一四、二六二	六、三〇	九二、一五
粟	六、三〇	五三	一七、三〇〇	九、五〇	一六四、三五
黍	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	七、七〇	10、五〇
蘿蔔	一、七二	四二	七、二七八	三	二、一八一、五四
茄子	九、五〇	四、五〇	二四、七四九	八	一、九七九、九二
胡瓜	三、五	三、五	一三、〇五一	五	六、五二、五五
甘藷	一、四〇	六、五	九、二八二	六	五、五六、九二
馬鈴薯	九、三	六、九	六、四五〇	六	三、八七、〇〇
青芋	二、九	一、〇八	一四、〇九九	一一	一、五五〇、八九
漬菜	七〇	一、四七	10、二六一	七	七、七八、三〇
薑	三、五〇〇	一八一	六、三五	三〇	一九〇、五〇
葱	八、110	九〇	七、三五	10	七、三、五〇

小	株	信	登	公	銀	郵	種	小	山	宅	畑	田	種	小	菓	工
計	券	用	記	行	便	便	別	計	林	地	地	地	別	計	品	
二、六六二、五五〇	五、四七、五〇〇	二、六五〇、〇〇〇	三、七〇〇、〇〇〇	二、五五〇、〇〇〇	八、一四二、六八一	三、一九二、三九九	元	貯	三、八、一〇〇	七、七、四〇〇	三、三、一〇〇	三、三、一〇〇	小	三、八、七	二、六、二	
一、六五九、八三二	四、九四六、八六〇	二、六五〇、〇〇〇	三、五七〇、〇〇〇	二、七、五〇〇	二、七、七六七	二、七、六九五	利	金	四、七、六、三五〇	一、六〇、〇五〇	五、〇三、一〇〇	四、五、七、二〇〇	反	四、〇、〇〇〇	一、五	
二、四〇、三三二、三七二	六、二、三、七、三六〇	二、四、三〇〇、〇〇〇	三、九、二、七〇、〇〇〇	二、六、七、七、五〇〇	八、三、八〇、四八八	三、三、〇、〇六四	子	其	六、〇〇〇	七、五〇〇	六、五〇〇	二、一、〇〇〇	他	一、六、六、七八、〇〇〇	四、三、一〇〇	
							元	利					得			
							利	合					へ			
							合	計					キ			
							計	金					收			
							金						入			

小	公	數	種	小	酒	工	石	材	牛	物	質	飲	旅	種
計	吏	員	別	計	造	業	材	木	馬	品	小	食	人	別
六	八	八	八	二	二	一	七	三	四	一	一	一	六	戶
一、七、七、四〇〇	六、七〇、〇〇〇	一、一〇、四、〇〇〇	一、一〇、四、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、五、〇〇〇	一、五〇	一、七、五五	二、五、五五	六、八、六四	三、〇〇	一、〇、五五	一、〇、五五	數
				三、三、六、七四	三、三、六、七四	一、八〇、六、八〇	五、五、五〇	五、五、五〇	五、五、五〇	五、五、五〇	五、五、五〇	五、五、五〇	五、五、五〇	上
														高
														純
														益
														益

桐	木	薪	木	木	二	小	桑	葡	柿	栗	梅	小	夕	百	南	甜	長	胡	牛	西
呂	炭	材	材	材	林	計	計	萄	萄	梅	計	顏	合	瓜	瓜	芋	蘿	房	瓜	
七、八〇	二、五〇	二、四	三、七、〇〇	一、二、四	生	三、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、三、六〇〇	一、五、一〇〇	二、五〇〇	二、八、三	五、四、四六	三、八、〇四	二、四、二	九、五〇一	一〇、三〇四	三、六、六	一、九、二〇〇	
一、八〇	二、五〇	二	三、七、〇〇	一、二、四	產	二、三、八、八〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、八、四	七、九	三、三	三、八	一、六	二、六、六	一、九、一	一〇、六	八、六	二、二	二、四、六	
一、一、五〇、〇〇	三、七、五	四、五、四、四	一、七、九、〇〇	五、七〇	額	八、五、一、四〇〇	二、四	二、四	四、三、五〇	一、一、九、五	五、七	九、六	九〇	一、〇、三	四、七〇	一、〇〇、七	八〇、九	二、六、四	四、七、九	
					單	三、一、一、〇、六、八二	四、八	四、八	三、〇	三、〇	〇	三	五	五	五	二	九	二	二〇	
					價	二、二、七、九二	三	三	三、五	三、五	〇	三	五	五	五	二	九	二	二〇	
					價	二、二、七、九二	三	三	三、五	三、五	〇	三	五	五	五	二	九	二	二〇	
					額	二、二、七、九二	三	三	三、五	三、五	〇	三	五	五	五	二	九	二	二〇	
					額	二、二、七、九二	三	三	三、五	三、五	〇	三	五	五	五	二	九	二	二〇	

生	織	六	小	灰	人	既	五	小	雞	雞	馬	牛	四	小	雜	鮭	三	小
系	物	雜	計	類	糞	尿	肥	計	計	卵	家	家	家	計	計	魚	水	計
二、五	四、一、六	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
三、〇〇〇	五	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
三、〇〇〇	五	單	單	單	單	單	單	單	單	單	單	單	單	單	單	單	單	單
七、五〇、〇〇	三、六、〇〇	價	價	價	價	價	價	價	價	價	價	價	價	價	價	價	價	價
七、五〇、〇〇	三、六、〇〇	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額
七、五〇、〇〇	三、六、〇〇	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額

醬油	九五	五〇	四七、八三〇	三三〇	一、一〇〇、〇九〇
酒	二〇八	五〇	一〇四、三〇〇	四〇〇、〇〇〇	四、一七三、六〇〇
茶	八二	五〇	四〇七	二、〇〇〇	八、四〇〇、〇〇〇
魚類	六、〇四六	五〇	—	—	三、〇二八、八九〇
煙草	五、四六七	五〇	—	—	一、三六六、六六〇
菓子	二、〇〇〇	五〇	—	—	一、〇〇二、〇〇〇
牛肉	三、五〇〇	一〇〇	—	—	八七、五〇〇
雞肉	一、六〇〇	一〇〇	—	—	四八、〇〇〇
雞卵	二、四〇〇	五〇	—	—	—
鹽	一、六、九八	五〇	—	—	—
油類	二、二八一	五〇	—	—	—
砂糖	一、三、八〇	五〇	—	—	—
牛乳	三、三〇	五〇	—	—	—
味噌	四、六七〇	五〇	—	—	—
栗	五、九五〇	一〇〇	—	—	—
柿	八、六八〇	五〇	—	—	—
林檎	一、〇〇〇	五〇	—	—	—
梨	一、〇〇〇	五〇	—	—	—
桃	五〇〇	五〇	—	—	—
桑	三三三	二七二	—	—	—
小計	—	—	—	—	—

二、家畜家禽	—	—	—	—	—
牛	一頭	二天	—	—	—
馬	一頭	一七	—	—	—
小計	—	—	—	—	—
三、衣服器具住居費	—	—	—	—	—
衣服	二、六五九	五〇	—	—	—
家具	八、七五五	五〇	—	—	—
小計	—	—	—	—	—
四、雜品類	—	—	—	—	—
農具	二、〇九四	四〇	—	—	—
薪炭	九、九七七	五〇	—	—	—
雜料	三、四〇〇	五〇	—	—	—
小計	—	—	—	—	—
五、肥料	—	—	—	—	—
厩肥	七、八五三	三〇	—	—	—
人糞	四、八三三	四三	—	—	—
小計	—	—	—	—	—

糞灰	六、五五四	三〇	—	—	—
金肥	一、八七四	三〇	—	—	—
小計	—	—	—	—	—
消費額	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—
一、小作料及地代	—	—	—	—	—
田	—	—	—	—	—
畑	—	—	—	—	—
宅地	—	—	—	—	—
小計	—	—	—	—	—
二、負債利子	—	—	—	—	—
登記借入	—	—	—	—	—
信用借入	—	—	—	—	—
小計	—	—	—	—	—
三、勞働費人員賃金	—	—	—	—	—
雇人	—	—	—	—	—

左官	二〇	三、〇〇〇	男二十一人	一人六十錢
木挽	三〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	男三百一人	一人五十五錢
小計	—	—	—	—
四、家政費	—	—	—	—
通信費	—	—	—	—
兒童教育費	—	—	—	—
醫藥費	—	—	—	—
寄附金	—	—	—	—
交際費	—	—	—	—
旅行費	—	—	—	—
小計	—	—	—	—

丙 歲入出總額比較

科 歲入	金額
本村生產額	二四、三八四、三八
本村收入額	三、五三八、九五二
合計	二五、九三三、一九〇
科 歲出	金額
本村支出	三三、〇六一、七一

本村消費額	三、六七、七四
本村支出額	三、一五、七〇
合計	一五、八七、八〇
差引	不足 九四、六五

(二) 金融ノ狀況

甲 本村民ノ負債

區別	借入金額	利率	貸借期間
登記借入	九 二、三五、〇〇〇	年一割	三ヶ年内外
信用借入	二五 二、五〇、〇〇〇	全上	二ヶ年内外
合計	三四 四、九〇、〇〇〇		

明治四十二年十二月末現在

乙 本村民カ他町村民ニ對スル債權
明治四十二年十二月末現在

區別	貸付金額	利率	貸付期間
登記貸付	四 三、七〇、〇〇〇	年一割	三ヶ年内外
信用貸付	一五 二、五〇、〇〇〇	全上	二ヶ年内外
合計	一九 五、二〇、〇〇〇		

(ホ) 蓄積ノ狀況

明治四十二年十二月末現在

蓄積金額	村有區有	組合又ハ申合セ共同	個人	總額人員總額人員
公債	—	—	—	—
銀行貯金	—	—	—	—
郵便貯金	—	—	—	—
貯業債券	—	—	—	—
株券	—	—	—	—
合計	二五、五九〇、四六、七九	—	—	—

備考 蓄積ノ起元、村有トシテハ基本財産蓄積條
例ノ規程ニ依リ明治四十一年度ヨリ漸次蓄
積セルモノニシテ其成績極メテ佳良ナリ
區有トシテハ、學區ニ依リ前項ノ如ク蓄積
セルモノニシテ是亦好成绩ナリ
組合又ハ申合ノ如キハ、其必要ヲ認メ、山
谷澤校基本財産蓄積會トイフモノヲ組織シ
毎五ヶ年間、年四回一回七十圓内外ノ貯金

第九、勞力

ヲ爲シ、是ヲ銀行預ケトシ、元利共永遠積立置キ、本校カ經常費ノ全部ヲ年々支辨シ得ルニ至ルマテ蓄積スルノ方法ニシテ、豫定以外ノ好成绩ヲ擧ケツ、アリ
個人蓄積ニ就イテハ別ニ起元ノ微スベキアルニアラサルモ、各自志望ノ傾注スル所ニ基クモノニシテ、殊ニ株券ノ如キハ敢テ營利ヲ目的トシテ所有スルモノニアラスシテ年一年ト一家經濟ノ剩餘金ヲ以テ購入シ、之ノヲ永遠ニ及ホシ各自固定ノ資ニ充ツルノ目的ニ出ツルモノ、如シ

(イ) 一日ノ勤務時間

季節	節勤務時間	摘要
春期	自四月自前七時十時	中食休養休ミヲ除キ尙四月中旬ヨリ午睡一時三十分ヲ除キタルモノ
夏期	自七月自前七時十時	全上ニシテ九月中旬ヨリ午睡ヲ廢シタルモノ
秋期	自十月自前七時十時	朝晝夕ノ三飯時間及養休ヲ加除シタルモノ
冬期	自十一月自前八時十二時	—

(ロ) 農業者ノ休業日

冬期	自一月自三月	七
秋期	自十月自十二月	二
夏期	自七月自九月	九
春期	自四月自六月	四
合計	—	—

(ハ) 雇人

明治四十二年

區別	季節	節	男	女	計	摘要
本村内ニ雇ハルモノ	春期	自四月自六月	五五	五五	一一〇	
	夏期	自七月自九月	三五	三四	七〇	
	秋期	自十月自十二月	一九	二三	四二	
	冬期	自一月自三月	一六〇	一七〇	三三〇	

計	春期自四月至六月	一、七五	一、二七	二、〇〇
	夏期自七月至九月	一、九	一、〇二	二、三
本村内ヨリ他町村ニ雇ハルモノ	秋期自十月至十二月	一、〇三	九、〇	一、〇一三
	冬期自一月至三月	二、〇	一、〇	三、〇
計	春期自四月至六月	三、六	一、二七	二、四三
	夏期自七月至九月	二、七	三、五九	四、二
他町村ヨリ本村ニ雇入ル者	秋期自十月至十二月	六	二、四	二、九〇
	冬期自一月至三月	五	一	五
差引		二、八	六、二七	八、五
備考		三、〇	一、四七	一、五九七

備考 本村内ヨリ他町村ニ雇ハル、者ヨリ他町村ヨリ本村ニ雇入ル、者ノ數ニ於テ著シク減少セシハ、重ニ女子ノ他府縣へ製糸紡績等ニ雇ハル、モノ多キガ故ナリ

(二) 雇人ノ賃金

甲 日雇賃金 明治四十二年

季	節	重ナル	賃金	備考
春期自四月至六月	田打、牛馬耕、田植、畑打	男一人女二人	三	田打男早五女三、牛馬耕男早田植男早女三、畑打男早
夏期自七月至九月	田畑除草		三	田畑除草男四十、女三十
秋期自十月至十二月	稻刈米拵		三	田刈米拵男卅七、女二十七
冬期自一月至三月	雪落米拵		三	雪落米拵男卅七、女二十七

乙 年雇男ノ給金

區別	人員	一ケ年ノ給金	摘要
最高	七	七五	内職トシ作徳米ヲ得ル事此價格下ノ如シ以下全シ五圓
普通	三	一、四〇	
最低	三	七〇	全 三圓

第十、役用家畜

役用家畜

頭數	價格	使用年限	一ケ年使用價格	一ケ年使用日數
牛 二、六〇	七、〇〇	七	一、〇〇	一、七〇
馬 一、三〇	八、〇〇	八	一、〇〇	一、三〇

第十一、副業

イ 家 禽	羽數	一ケ年産卵數	全上價格	肉用全上價格	備考
鶏	六二五	七、六〇〇	一、九〇	一、五	五
鴨	五二枚	八五、一四〇	一、二六	三、七	一、五、四八〇

第十一、農業ニ關スル施設ノ狀況

一、本村ハ農事改良ノ目的ヲ以テ、毎年農閑ノ時機ヲ利用シ、普通農事、蠶業、林業等ノ短期講習會ヲ開催シ、多數ノ子弟ヲシテ漸次受講セシメ、新業發達上多大ノ効果ヲ得シメツ、アリ

二、本村ハ毎年稻作立毛及ヒ蠶種生繭ノ各品評會

ヲ開催シ、成績優等ナルモノニハ賞品ヲ與ヘ、新業奨励ノ途ヲ講セシニ其効果顯著ナリ

三、本村農會ハ村内一ケ所ヲシテ模範共同苗代組合ヲ設立セシメ、農會ヨリ之レカ費用ノ幾分ヲ補助シ、尙進ミテ全般ニ及ホサント欲ス

四、村農會ハ村内二ケ所ニ試作田ヲ選定シ、之レカ費用ハ村農會ニテ支辨シ、担当者ヲ督勵シ、指導奨励ノ途ヲ講シツ、アリ、其成績最モ優良ナリ

五、本村農會ハ毎年一ケ所ヲ限リ模範堆肥舎ヲ建設セシメ、本村農會ハ郡農會ノ補助ヲ俟テ之レカ費用ノ補助ヲ爲シ、之レカ指導奨励ノ機關タラシメタルニ其成績良好ナリ

六、古志郡農會ハ、本村ニ二ケ所ノ磷酸肥料ノ適量試験ヲ囑託セラレシニ依リ、本村農會亦是レニ贊助シ、之レカ担当者ニ農會費ヨリ補助ヲ與ヘ、該担当者ハ其成績ヲ報告シタルニ、其効果特ニ觀ルヘキアリ、成績最モ良好ナリ

七、本村ハ養蠶季節巡回教師ヲ僱聘シ、稚蠶共同飼育及飼育家ヲシテ各戸ニ就キ飼育上指導奨励ノ任ヲ執リ當事者ヲシテ多大ナル効果ヲ收メシ

メタリ
八、本村ハ玉爾製糸教婦ヲ聘備シ、多數ノ婦女子ヲシテ斯業獎勵ノ途ヲ講セシメタルニ、其効果亦見ルヘキモノアリ
以上ノ外、本村ハ時運ノ進歩ニ伴ヒ、耕地ノ整理、各種産業組合ノ設置等ニ就キテ、其ノ成立ヲ期セシコトニ努力スト雖モ、時機未タ至ラサルハ深ク遺憾トスル所ナリ

第十三、將來ノ施設

第一章 豫論

第一、耕地

一 所有者關係
本村、田反別三百六町八反歩ノ内、私有三百六町四反歩。畑反別二百八町九反歩ノ内、私有二百四町四反歩アリ、之レヲ他町村民ノ所有ト差引スル時ハ、結局本村民ノ所有權アル農地ハ、田三百一町六反歩、畑百八十五町一反歩ナリ、而シテ本村田畑ノ合計地價十二萬六千三百十圓ニ對シ、本村民ノ所有地價ハ十四萬二千八百五圓ナルカ故ニ、村單位トシテ觀察

テ小農多數ニシテ、特ニ純小作者ノ數甚タ多キヲ見ル
故ニ本村ニ於テ將來土地ニ對スル施設ハ、自作者ヲ基礎トシタル方法モ必要ナレトモ、小農即チ小作者ヲ扶掖スル目的ヲ以テ計畫スルヲ急務トスヘシ
田地ノ等級ニヨレハ、以上七十町五反歩、中百二十五町四反歩、下以下百十町九反歩ニシテ、其地質土性ヨリ考察スルニ、中ニハ元來瘠薄ノ地ニアラサルモ排水不良ノ爲收量少キ田地少カルヘシ、即チ乾濕田ノ表ニ微スルニ、濕田反別六割餘ヲ占ムルニ依リテ其ノ一般ヲ知ルヘシ
故ニ下以下田地ノ收穫一反歩一石二斗乃至一石六斗ナルヲ以テ、之ヲ中等田トナシ得ルモ、尙其レノミニシテ四百五十石ノ增收ヲ得ルノ割合ナリトス

第二、生産

本村生産物ノ種類ハ、四十七種ノ多キニ上ルト雖モ其重ナルモノヲ舉クレハ、米ノ六千二百四十二石六萬五千五百四十一圓ヲ主位トシ、大小豆四百三十九石四千八圓、蔬菜類ノ重ナルモノ七千八百七十五圓、木材千七百四十圓、薪材四千九百四十二圓、水産物

スレハ、極メテ良好ノ狀態ニアリト云フヘシ
二 耕作關係
自他村民ノ耕作關係ハ、差引七町五反八畝歩ハ他村民ニ於テ耕作スレトモ、其ノ大部分ハ畑ニシテ、田ハ村内總反別ヲ悉ク自村民ニ於テ耕作スルモノト見做スコトヲ得。故ニ勞働ニ從事スル人員一人ニ對スル耕作反別ハ、田一反六畝歩、畑八畝歩、合計二反四畝歩ニシテ、一戸ノ平均耕作反別一町一反一畝歩ハ、他町村トノ比較上耕作地多シト云フ能ハサルナリ。所有田畑ノ大小ニヨル區別ハ、田皆無ノモノ百九十六戸、五反歩未滿ノ所有者二百二戸、其ノ合計三百九十八戸、畑所有關係亦殆ント同様ニシテ、即チ全戸數ノ七割ハ小農ナリトス

自作小作ノ關係、純粹ノ小作地ハ總耕作地ノ五割六分餘ヲ占メ、戸數ニ於テ小作者六割餘ヲ占ムルヲ以テ見レハ、耕作反別關係ヨリ見ルモ亦小農多キヲ窺ヒ得ヘシ
耕作地積ノ多少ニヨル區別ヲ見ルモ、田一町歩未滿ノ耕作戸數ハ三百二十戸ニシテ、總農家ノ七割ヲ占ム
以上土地ノ所有及耕作關係ヨリ見ルニ、本村ハ概シ

合計三百八十圓、家禽家畜類四百七十二圓、繭一萬五千四百八十圓、冬季副業雜物三百十六圓、養蠶工品四百三十二圓ニシテ、其他ハ多ク自家用品ニ過キス
以上掲ケタル生産物中木材ニ於テ將來發達增收ヲ期スヘキモノヲ舉クレハ
第一 米 作 第二 果 樹
第三 桑 園 第四 木 材
第五 薪 材 第六 織 物
第七 養蠶工品 第八 家 畜
第九 家 禽 第十 養 蠶
ノ十項ニシテ、之レ等ハ何レモ其緩急ヲ圖リ、之レカ改良増殖ニ關スル方法ヲ計畫シ實施セサルヘカラス

第三、經濟

一 勞力
本村ノ本籍戸數五百四十二戸、人口三千四百二十五人ニ對シ、現住五百一戸、三千二百二十七人ノ内、業戶數四百三十九戸二千八百五十一人ニシテ、内農業勞働ニ從事スル者千八百五十九人、耕作反別ハ

一人當リ僅々二反六畝歩ニ過キス、サレハ雇人ノ他町村トノ出入ヲ見ルニ、差引千五百九十七人ハ他町村ニ出稼スル數ナリト雖モ、是亦其ノ多數ハ少女ノ生糸工女ナリトス。斯カル状態ニアリテ副業的生産物多カラサル點ヨリ見レハ、本村ノ勞力ニハ尙過剩アリト云ヒ得ヘシ

二 一家經濟

標準調査ニヨル一家ノ經濟ヲ見ルニ、所有土地約四十町歩公債貸金約四萬圓ヲ有スル大地主ニ年々餘裕アルハ普通ノ状態ナレトモ、約二町歩ノ所有地ヲ自作シ四五百圓ノ蓄財アル中農ト無資産ニシテ約一町八反歩ノ耕地ヲ小作スル小農トニ至リテハ、何レモ餘裕少キノミナラス、時ニ不足ヲ生スル状態ニアリ數ノ上ヨリ見テ本村總戶數ノ約六割ヲ占ムル小農ノ收支スクノ如シトセハ、村治上考慮ヲ要スル點ナルヘシ

三 公費ノ負擔

公費負擔ノ割合ヲ見ルニ、總收入七千餘圓ノ大地主ハ二千百十圓、收入六百三十八圓ノ中農ハ八十五圓五十二錢五厘、又收入六百二十九圓ノ小作者ハ小作料公租ノ合計金二百四十五圓ニシテ、今之レカ總

收入トノ歩合ヲ示セハ左ノ如シ

- 大地主 二割九分六厘
- 中 農 一割三分一厘
- 小 農 三割八分九厘

今小農ノ收入中ヨリ、小作料ヲ除キタル殘額三百九十五圓ニ對スル純公租八圓余ヲ比較スレハ二分強ニ當ル

四 村通計ノ收支關係

本村生産其他ノ收入ヲ通計スル時ハ、十五萬六千九百二十三圓餘ノ收入ニ對シ、總支出ハ十五萬七千八百九十七圓餘ニシテ、差引九百七十四圓餘ノ不足ナリトス

第二章 結 論

豫論ニ叙述シタルモノニヨリ、將來施設ノ要項ヲ生産ト經濟トノ二方面ニ分チテ述ヘン

一 米作

本村米作ニ對シテハ、將來收穫ノ増加ト生産費ノ減少トヲ以テ二大方針トセサルヘカラス。而シテ增收ヲ計ル施設ニ就テハ、其ノ急務トスル所大字ニヨリ

事情ヲ異ニスト雖モ、調査ノ結果ニヨレハ、濕田ノ排水工事ヲ起ス如キハ最モ急務ノ一ナリトス。何トナレハ百八十三町三反歩ノ濕田中、單ニ秋季水田管理ノ注意ニヨリ排水シ得ル反別三町五反歩ノ外ハ、工事ヲ施ス必要ノ場所ニシテ、現在ノ收穫一反歩一石二斗乃至一石六斗、而シテ斯カル情態ノ土地ハ三割ノ增收ハ普通ナルヲ以テ今假リニ、二割ノ增收ヲ得ルモノトスルモ、一反歩二斗四升乃至三斗六升ニシテ、百八十町歩ニ對シテハ四百三十二石乃至六百四十八石ナリトス。故ニ多少ノ工費ヲ要スルハ勿論ナルモ、其工費一反歩約二十圓トスレハ三萬六千圓十ヶ年賦償還借入ニテ使用スルトキハ、一反歩一ヶ年ノ負擔ハ二圓二三錢ニシテ工事施行ノ結果增收シタル部分ノ支出ニテ足ル、加之、其工費ノ大部分ハ人夫賃ナルカ故ニ、施行方法宜シキヲ得レハ、悉ク村民ノ臨時收入ト爲ルヘシ、之ヲ實行スルニ當リテハ多少ノ困難アルヘシト雖モ、一面ニ於テハ臨時ノ收入ニヨリテ村民ニ資金ヲ蓄積セシムルト同時ニ一面ニ於テハ將來重要物産ノ增收ヲ計ル手段ナルヲ以テ、之レカ決行ヲ期セサルヘカラス

ノ關係ナリトス。即チ現在施用スル肥料ハ、一反歩平均堆肥百十九貫、其ノ他ノ肥料ヲ合計シテ總金額一萬五千七十九圓、内約二割三千圓ヲ桑園其他畑地ニ施用スルモノトセハ、田ニハ一萬二千七十九圓、反當約四圓ナレハ猶ホ増施スルノ餘地アリ、唯其程度ニ至リテハ、字毎ニ事情ヲ異ニスルヲ以テ、之レカ適量ト方法トヲ決定スル必要アリ

要スルニ、從來實行シタル鹽水選種・稻種ノ限定・正條植等ノ各事項モ增收ノ一手段ナリト雖モ、前述ノ

一、濕田ノ排水

二、施肥量増加

ノ二項ハ本村ノ如キ小農多キ地方ニ於テハ、特ニ急施ヲ要スル點ナリトス

生産費減少ノ手段トシテ施行スヘキモノハ、繁忙時ノ勞力ヲ節約スルヲ以テ急務トス、何トナレハ本村ニ於ケル米作一反歩ノ收穫約二石ニシテ、其支出金總額ヲ見ルニ十六圓乃至二十二圓余ナリ、而シテ各支出目中、肥料代・種子・農具費・公租等ハ何レモ節約スル余地ナキ費目ニシテ、唯多少節シ得ルモノハ勞力ニ過キス

米作勞力ヲ節約セント欲スレハ、其基礎トシテ耕地

●整理ヲ實行セサルヘカラス、耕地整理ハ獨リ勞力節約ノ爲ニ必要ナルノミナラス、農商務省農事試驗場ノ調査ニヨレハ、田區ノ廣狹ハ勞力ノ多少ニ關係シ二畝步區ト一反步區トニテハ、一町步ニ就キ耕起ヨリ除草迄ノ間ニ於テ、實ニ二十三人半ノ差アリ、此一事ヲ以テ見ルモ耕地ノ區劃ヲ正ス必要アリ、況ンヤ牛馬耕ヲ實施セントスルニ於テヲヤ

次ニ勞力節約ノ手段トシテ必要ナルハ、牛馬耕ノ實施ニアリ、本村耕作田反別三百町步ノ内、濕田反別百八十町步、差引百二十町步ハ、現在ニ於テ牛馬耕ヲ實施シ得ル反別ニシテ、其割合大字ニヨリ素ヨリ同シカラスト雖モ、今之レヲ春耕期三十日間トスレハ一日四町步ニシテ、一人馬二反步ヲ耕起シ得ルモノトセハ、實ニ二十人二十頭ニテ足ル。然ルニ本村ノ役用牛馬頭數ヲ見ルニ牛二十六頭馬二十七頭ニシテ、全村ヲ平均スル時ハ百二十町步ヲ耕鋤スルニ十分ノ數ナリト雖モ、大字ニヨリ事情ヲ異ニスルモノアルノミナラス、全村ヲ通シテ行フ時ハ、往復ニ時間ヲ徒費スル損失アルヲ以テ、一ケ字又ハ二三ケ字ヲ一區トシ、左ノ方法ヲ以テ之レカ普及ヲ圖ルヘキナリ

- 一 村農會ノ事業トシテ牛馬所有者ノ子弟ヲ牛馬耕組合ヲ組織スルコト
 - 二 組合員ハ極力牛馬耕ノ練習ヲ行フコト
 - 三 區内ノ田地ニシテ牛馬耕ヲ行ヒ得ルモノハ、全部組合員ヲシテ耕鋤セシムルコト
 - 四 耕起料及代掻料等ハ、村農會總會ニ於テ協定スルコト
- 此ノ如キ方法ヲ實施シテ、勞力ノ節約ヲ計ルヲ以テ本村ノ急務トス。要スルニ
- 一、耕地整理
 - 二、牛馬耕ノ普及
- ヲ以テ當面實行ヲ要スルモノトス
- 二 果樹
- 本村ニ於ケル果實ノ生産ヲ見ルニ、其作付見積反別梅二反五畝步、栗一町五反一畝步、柿二町二反六畝步、葡萄二反步其合計收入金千三十一圓、平均一反步ノ收入二十三圓七十五錢ノ現況ナリ、元來本村ノ地質ハ山地ニ沿フ部分ハ第三紀層ニシテ、普通作物ノ栽培ニ適セサルモノアレハ、現ニ栽培スル柿・栗ノ品種改良ト増殖トヲ主トシ、其他葡萄・苹果ノ類ヲ可トス。何トナレハ本村ハ其附近ニ於ケル市場長

岡市及小千谷町ヲ隔ツル甚ク遠カラス、特ニ交通機關ハ水路ニ陸路ニ共ニ最モ便益ナルヲ以テ、他ノ生産地方トノ競争上優勝ノ地位ニ在リ、是レ本村果樹栽培ノ有望ナル所以ニシテ、大字横渡・浦柄・妙見・六日市・中海・瀧谷・蛇山・渡澤ノ一部ヲ區域トシテ實行スヘキナリ

三 桑園

本村現在桑園見積反別約三十町步ニシテ、畑ノ耕作反別百八十五町步ノ約六分ノ一ナリトス、而シテ耕作地ノ大小ニ據ル農家戸數表ヲ見ルニ、畑五反步未滿ヲ耕作スル者二百九十戸即チ總戸數ノ七割弱ニシテ、現在ニ於ケル畑ノ利用ヲ見ルニ、大小豆以外ノ夏作物作付反別九十三町六反三畝ニシテ、大小豆作付反別八十三町二反二畝步ノ内ニハ、畔豆ノ見積反別モ含ムヲ以テ此ノ合計反別ヲ以テ悉ク夏作仕付反別ナリト云フ能ハサレトモ、以上列記シタル事實ヨリ推セハ、開墾ヲ行フニアラサレハ、桑園反別ノ増加ハ困難ナリト云ハサルヘカラス

然レトモ蕎麥ノ如キハ、一反步ノ收入六七圓ニ過キサルヲ以テ、本村ニ於ケル勞力關係上、養蠶擴張ヲ爲シ得ルニ於テハ、多少桑園ヲ増殖スル余地アリト

見做スコトヲ得ヘシ、故ニ後段養蠶ノ結論ニ至リテ之カ決定ヲ爲スヘシ

四 木材

五 薪材

本村ノ山林臺帳面反別五百一町五反步ノ内、區有四十六町四反步、個人有四百五十五町步ニシテ、明治四十二年ノ生産現況ヲ見ルニ、木材四百七十町價一千七百三十九圓ニ對シ、薪材ノ産額四千九百四十一圓ナリトス、此ノ生産比例ハ本村ノ地位上自然ノ數ニシテ、運搬至便ノ地ニアリテハ薪材ヲ産スル利アリト雖モ、今其反別生産額ヲ比較スルニ生産金額割合ニ多額ナルヨリ見レハ、亂伐ノ結果ト云フヲ得ヘシ、果シテ然リトセハ將來區有林ハ勿論、私有林ニモ亦立木地ニハ殖林ヲ行ヒ、輪伐法ヲ定メ、之ヲ遵守セシムル方法ヲ設ケサルヘカラス

次ニ森林ハ或度迄ハ有利ナルヘシト雖モ、水利ノ點ヨリ考察スレハ、魚沼ノ山間生産品ヲ容易ニ需要シ得ラル、地位ニアルヲ以テ、一部ノ適地及營利以外ノ事情ニ基ク範圍ニ止ムルヲ得策トスヘシ

六 織物

本村ノ織物ハ悉ク賃機械ニシテ、其數四千百九十六

反、此賃金三百十六圓、今其從事スル戸口ヲ見ルニ五十八戸七十三人、一人ノ生産高五十七反賃金四圓三十錢ニ過キス

今本村ニ於ケル労働ニ從事スル女子ノ總數ヲ見ルニ九百五十四人ノ内、一ケ年間ニ他町村ニ雇ハル、者ノ累計千二百七十四人、其季節別ヲ見ルニ、秋季（十月ヨリ十二月）最モ多ク、九百十人ニ對シ、冬季（一月ヨリ三月）ハ僅々十八ニ過キス

元來本村ニ限ラス本縣一般ニ冬季他地方ニ出稼スル習慣ハ、陰曆ノ天候ヲ避ケ東海岸ノ快晴ナル地方ニ行クモノ多ク、精神的慰安ノ點ヨリ見レハ、強テ否定スヘキコトニアラサルモ、經濟的見地ヨリスレハ其地方ニ産業ナキヲ証明スルモノニシテ、爲政者ノ考慮スヘキ點ナリトス。況ンヤ本村ノ如ク冬季ヨリハ事ロ秋季ニ出稼多キ現象アル地方ニシテ、冬季婦女子ニ恰好ナル副業的織物ノ生産前述ノ如キ現況ナルハ、畢竟其方法宜シキヲ得ス、利益少キニ基クモノナレハ、斯業ニ對スル本村ノ急務ハ機器ヲ改良セシメテ一人ノ生産量ヲ増加スルニアリ

其方法ハ、斯業ニ適スル家庭ヲ有スルモノヲシテ、申合規約ヲ設ケシメ、月賦返済法ヲ以テ足踏機ノ如ク

而シテ一面ニ於テハ、平原地ノ農家ニモ肥料生産ノ目的ヲ以テ養豚ヲ行ハシムルヲ得策トス、從來養豚ヲ行ヒ失敗ニ終リタル者多キハ、其方法宜シキヲ得サリシニヨルモノニシテ、將來ハ種豚家ヲ村内ニ設ケ、普通家ハ決シテ生産ヲ行ハス、單ニ飼育肥臘セシムルノミニテ、普通一戸一頭一ケ年乃至二ケ年飼育シテ販賣スル方法トスルニ於テハ、豚モ亦有利ノ家畜タルヤ必セリ

九 家禽

本村ノ家鶏現在數ハ六百十五羽、一ケ年間ノ販賣數四百四十九羽ナルヲ以テ、約一千羽飼育スル割合ニシテ、産卵七千六百個ナリトス、而シテ本村ニハ農鶏ニ適セサル事情ハ一モ存スルモノナク、四百戸ニ餘ル農家中、假リニ二百戸ニ於テ計畫ヲ立テ、飼育スルニ於テハ、飼育數二千羽一ケ年ノ販賣一千羽ハ容易ノ業ニシテ、産卵收入亦從ヒテ増加スルコトヲ得ヘシ

今家鶏ニ對スル方法ヲ擧クレハ、村内ニ種禽家ヲ設

七 改良具ヲ購入セシムルニアリ

本村ニ於ケル農工品ハ繩・苧・俵ヲ重ナルモノトシ、其生産金額四百三十餘圓ニ過キス、之レ一ハ大字ニヨリ冬季山林（薪材）業ニ從事スルモノアルモ其原因ナルベシト雖モ、大字ニヨリテハ全ク關係ナキモノアリ、斯カル大字ニ於テハ、冬季間ノ副業トシテ之レカ改良實行ヲ期セサルヘカラス、而シテ現在ノ生産力ヲ見ルニ、繩ハ一人一束内外、裏苧三四枚、叭二枚ニ過キス、斯ク生産力ノ微弱ナルハ、機器ノ不完全ニ基クモノナルヲ以テ、本村ノ農工品ニ對スル急務ハ機器ノ改良ニアリ、即チ改良機器ニアリテハ、一人平均叭（肥料用）八枚同苧十枚ヲ生産スル實例アルヲ以テ、織物機器ト同一方法ヲ以テ之レカ購入ヲ圖ラサルヘカラス

八 家畜

山地ニ沿フ部落ニアリテハ、飼料ヲ得ル便益多ク、牛ノ生産ニ適スルニ關ラス、現在飼育頭數二十六頭ニシテ一ケ年生産數五頭ニ過キス、之レ一ハ本村農家經濟ノ現況即チ小農多クシテ之レカ飼料ノ資力少キニ基クナルヲ以テ、將來斯カル狀態ニ適スル方法

十 養蠶

本村現在ノ收購高三百八十七石、即チ種紙一枚（蠶量約三匁ナラン）ノ桑消費量百五十七匁目、其收購七斗一升四合ハ殆ント春蠶ニシテ、夏狀蠶ハ極メテ少シ、而シテ春期（四月ヨリ六月）ニ於ケル勞力ノ出人ヲ見ルニ、本村ヨリ他ニ雇ハル、モノ四百八十八人（内女二百五十二人）、他ヨリ本村ニ雇ハル、モノ四百七十六人（内女三百五十九人）、又夏期（七月ヨリ九月）ハ出二百二十二人（内女百二人）ニ對シ入ハ二百九十九人（内女二百四十二人）ナルヲ以テ、春期夏期共本村ノ勞力ニハ過剩アリト見ル能ハス、故ニ本村ノ養蠶ハ、春蠶夏秋蠶共ニ或ル事業ニ代ルニアラサレハ擴張ノ余地甚タ少シト云ハサルヘカラス

桑園一反歩

一、小作料 三四五十錢 一、肥料 六圓
一、人夫二十人 六圓(三十錢) 計金十五圓五十錢
飼育手間

一、八十八人 二十四圓(三十錢)
二口合計金三十九圓五十錢
收入金四十八圓(滿一石二斗即四十圓) 差引八圓五十錢

以上ハ精細ナル收支計算ニアラサレトモ、以テ養蠶粗收入ノ利益ヲ窺フコトヲ得ヘシ、故ニ或ル程度迄ハ之レヲ擴張スルニ利アルヤ論ナシ

第二、經濟

一、一家ノ收支狀況

大地主・自作農・小作者・三階級ノ標準調査ニヨリ一家ノ收支計算ヲ見ルニ、大地主ノ歲入總計七千七百七十二圓三十三錢ノ内、重ナル收入ハ、貸金・貯金・株券等ノ別子二千六百二十三圓余、小作料地代四千四百一十一圓余ノ合計七千九百四十四圓ヲ主ナル收入トシテ收支ノ決算ニ於テ二千三百圓ノ剩餘アリ、又自作者ノ歲入總計六百三十八圓余ノ内、米作收入ノ三百

六十四圓、滿ノ百圓、即チ四百六十四圓ヲ主トシテ其他ハ一口十圓未滿ノ收入ニ過キス、其收支計算ハ僅カニ五十圓ノ剩餘アルノミ、然ルニ小作者ニ至リテハ、其總收入ハ六百二十九圓余、出稼及労働賃九十九圓余、合計四百五十四圓ニシテ、收支ノ計算ニ於テ十五圓余ノ不足ヲ生ス、之レ公租ノ負担ハ極メテ輕キモ、米作收入ノ大部分ハ小作料トシテ支出スルヲ以テナリ。即チ米作收入三百五十五圓ノ内、小作料ノ支出二百十六圓ニシテ、殘額百四十圓内外ニ過キス、今米作ノ純收入百四十圓ヲ耕作地一町五反七畝歩ニ割當レハ、一反歩ノ收入八圓九十五錢ニシテ、内肥料代三圓五十二錢ヲ除ク時ハ、殘金五圓五十三錢、一反歩ノ人夫二十三人トスレハ、一人二十三錢五厘ノ賃金ナリトス

然ラハ一面ニ於テハ、小作料高キニ失スルカラ研究スル要アルヘシ、今本村ニ於ケル地主ト小作者トノ所得比較ヲ見ルニ、一反歩ノ收穫二石二升四合ノ中等田ニテ、地主一石一斗二升五合小作人八斗九升九合ノ割合ナリトス。今本村中等田ノ地價ヲ見ルニ、一反歩四十四圓七十二錢ニシテ時價二百一十一圓、直接土地ニカ、ル公費四圓三十三錢、地主ノ所得米ヲ

一石十一圓トスレハ十二圓三十七錢、其ノ内公費ヲ除ク時ハ其殘額八圓四錢ニシテ即チ賣買價格二百一十一圓ニ對シ、三分六厘三毛ノ利子ナリトス
以上二者ノ所得ハ何レモ概算ニ過キスト雖モ、小作料モ亦強チ高キニ失セリト云フ能ハサルナリ
然ラハ小作者ハ前述ノ收入ニ甘ンスヘキカ、支出ト價フ能ハサルヲ如何ニセン、之レ結論中、生産ノ項ニ述ヘタル如キ方法ヲ實行シテ、收入ノ増加ヲ圖ラシムル必要アル所以ナリ

村内小數ノ大地主ニ、如何ニ多額ノ剩餘アルモ、外數ノ小農ニシテ收支債ハサラシカ、其結果ハ純労働力ト資本家トノ二階級トナリ、農村ノ現狀ヲ維持シ難キニ至ルナキヲ保スヘカラス。即チ多數農家ノ收支順境ナラサルノ結果ハ、村計ノ收支ニ據リテ知ルヘシ

二、一村ノ收支狀況

本村ノ生産額十二萬四千三百八十四圓余、其他ノ收入三萬二千五百三十八圓余、合計十五萬六千九百二十三圓ニ對シ、歲出合計十五萬七千八百九十七圓余ニシテ、差引九百七十四圓余ノ支出超過ナリトス、以上ハ總額ニ於ケル差引現計ナレトモ、其他町村ニ

對スル貸借關係等ヲ見ルニ、本村民ノ負債總計四千九百圓ニ對シ、他町村民ニ對スル債權ハ五萬七千三百五十圓ニシテ、一面蓄積狀況ヲ見ルモ、個人蓄積七萬二千八百七十七圓ナリトス。故ニ村全体ヨリ概觀スル時ハ、本村ノ經濟狀態ハ極メテ順境ニアルモノ、如シト雖モ、之レ多クハ中産以上資力アルモノ、蓄積ニシテ、多數小農ニシテ之レヲ行フモノ甚タ少ナシ。左レハ總收入ニ於テ約一千圓ノ不足ヲ見ル所以ナルヘシ

三、經濟上ノ施設

總計ノ上ニ於ケル本村ノ蓄積ハ、前項ニ掲クル如ク差引十二萬二千圓ノ余裕アリト雖モ、其大部分ハ銀行會社ノ株券トナリ式ハ公債債券銀行郵便貯金ナルカ故ニ、村内ニ於ケル金融ハ割合ニ圓滿ナラスシテ、小農ハ資本ヲ得ルノ途ナク、從テ事業ニ對スル必要ノ放資不十分ナルカ故ニ、各方面ニ於ケル生産余力アルニ拘ラス、之カ増加ヲ見サル現況ナリトス故ニ經濟上施設ノ急務ハ(生産ノ項ニ於テ叙述シタル生産増加ノ法ヲ講スヘキ施設ハ何レモ多少ノ資金ヲ要スルモノニシテ)全村ヲ一致セシムルハ、此際俄カニ實行シ難キ事情存スルヲ以テ、大字又ハ一部

落テ共同セシメ、重立間ニ於テ之レカ牛耳ヲトリ、
 組合ヲ組織シテ余財ノ集合蓄積ヲ圖リ、以テ村内ニ
 於ケル必要ノ施設事業ニ投資スル方法ヲ畫策スルニ
 アリ
 即チ之レカ基礎トシテ職業上ノ利害ヲ等クスル者十
 戸乃至三十戸ヲ一團トシテ組合ヲ組織セシメ、相互
 ニ需用スル資金ハ連帶責任ヲ以テ貸與スル手段ヲ採
 ルヲ第一トス
 次ニ資金需給ノ機關トシテハ信用組合ヲ組織セサル
 ヘカラス、然レトモ信用組合ノ組織ハ、其形式的設
 立ヨリハ寧ロ實質ノ健全ヲ期スルヲ要ス
 要スルニ本村ハ現在他地方ニ供給シツ
 、アル資本ノ一部ハ、之レヲ村内ニ於ケ
 ル生産的方面ニ投シ、生産ノ増加ヲ圖ル
 ナ以テ大方針トシテ、諸般ノ施設ヲ行フ
 ヘキナリ

明治四十四年五月十九日印刷
 明治四十四年五月廿五日發行

編輯者兼 新潟縣農會
 代表者 眞 柳 辰 亮
 印刷者 高 橋
 印刷所 高 橋 活 版 所
 新潟縣新潟市學校町通
 二番町六十三番戶
 新潟市東堀前通九番町
 新潟市東堀前通九番町

終

